List of exhibits

・Designations indicated by: ◎ Important Cultural Property, ○ Important Art Object.
・Some artworks are on view only during the first half (2 Jun to 5 Jul) or the second half (7 Jul to 9 Aug).
・Works on display may change without notice.

No.			Title	Artist	Period / Century	Material	Size(cm)	Collection No.
1			Illustrated sutra of cause and effect		Japan, 13th century	color on paper	27.8×57.2	6-B-11
2			Medicine jar of Negoro lacquer		Japan, 14th century	lacquered wood	H. 8.5 D. 8.8	6-Hb-54
3			Box, decorated in maki-e lacquer with design of beads		Japan, 14th century	lacquered wood	H. 8.3 D. 13.5	6-Hb-24
4			Shari-to (Buddhist reliquary)		Japan, 13th-14th century	gilt bronze	T.H. 40.5 D. 24.2×24.2	6-Hc-28
5	◎	First half	Yama-deva		Japan, c.952	color on wooden board	31.7×24.1	6-B-40
6		Second half	Fragments of ban (Buddhist ritual banner)		Japan, 7th century	silk with embroidery	31.0×12.6	6-Hd-2
7			Seated Maitreya bodhisattva		Pakistan, 3rd-4th century	stone	T.H. 56.2 H. 40.2	6-G-22
8			Standing Buddha		Korea, 8th-9th century	gilt bronze	T.H. 18.2 H. 12.8	6-G-19
9	◎		Seated bodhisattva with one leg pendent		Japan, 7th-8th century	gilt bronze	T.H. 28.3 H. 21.7	6-G-1
10			Standing Indra		Heian period, 9th-10th century	color on wood	T.H. 126.6 H. 98.8	6-G-5
11			God of wind		Japan, 13th century	color on wood	T.H. 69.0 H. 59.6	6-G-7
12			Shinto god and goddess		Japan, 12th century	color on wood	H. 39.1 (god) H. 30.4 (goddess)	6-G-9
13	◎		Mirror with a figure of Ekadasamukha in line engraving on mirror surface		Japan, dated 1134	bronze	D. 31.6	6-Hc-18
14			Mandara showing views of Kasuga shrine and Kofuku-ji temple		Japan, 14th century	color on silk	166.3×58.0	6-B-14
15	◎	First half	Section from scroll of hells “Disowend goblin”		Japan, 12th-13th century	color on paper	26.0×59.5	6-B-12
16	◎	Second half	Section from scroll of diseases and deformities “Corpulent woman”		Japan, 12-13th century	color on paper	25.3×45.1	6-B-13
17	○		Iconographic drawings	Gensho (1146-1222)	Japan, 12th-13th century	ink on paper	73.0×57.9	6-B-17
18	○		Bodhisattva of wisdom and intellect, riding on a lion’s back		Japan, 14th century	color on silk	70.7×36.9	6-B-16

福岡市美術館
FUKUOKA ART MUSEUM
〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6
TEL 092-714-6051（代表） FAX 092-714-6071
www.fukuoka-art-museum.jp

松永耳庵と仏教美術

Matsunaga Jian and Buddhist Art

会期 2026年6月2日|火|-8月9日|日|

会場 松永記念館室

出品No.9 《菩薩半跏思惟像》（重要文化財）

松永コレクションの中から仏像や仏画などの仏教美術の名品をご覧いただきます。
あわせて、耳庵翁が仏教美術を用いた茶会もご紹介します。

はじめに

松永耳庵翁が蒐集したコレクションには多数の仏教美術が含まれています。これらの中には、茶道具に見立てられて故人の追善の茶会**（No.1-4、16）**やその他の茶会**（No.6、8、9、13、15）**で使用された道具がある一方で、茶道具の範疇を超えた仏像や仏画の名品もあります。これは、耳庵翁が自身のコレクションを美術館で広く公開していたためです。本展では、松永コレクションを通して仏像の歴史をたどるとともに、仏教絵画の名品もご紹介します。

仏像の起源と日本での展開

仏教は今から約2500年前、インドの釈迦によって開かれました。釈迦の在世中は、仏教において礼拝の対象はありませんでした。ですが、釈迦が亡くなるとその遺骨（仏舎利）が尊ばれるようになり、仏舎利を納めた塔（仏塔）や塔を模した小型の容器**（No.4）**が礼拝の対象となりました。

《焔摩天像》（No.5、前期展示）は、京都・醍醐寺の五重塔を飾った壁画の一部ですが、仏教建築において塔が重視されるのは、釈迦の遺骨である舎利を象徴する建造物であるためです。人の姿をした釈迦の像である仏像が作られるようになったのは、釈迦が亡くなってから約500年が経過した1 ～ 2世紀にかけてと考えられています。**《弥勒菩薩坐像》（No.7）**は3～4世紀ごろにガンダーラ地方（現在のパキスタンあたり）で制作されたと考えられ、黎明期の仏像の姿を髣髴させます。

仏像の登場により、仏教はアジア各地へ広まりますが、特に重要な役割を果たしたのが、小金銅仏です。小型で丈夫な小金銅仏は長距離の移動に適しており、日本に百済から仏教が正式に伝えられた際に献上された仏像も小金銅仏でした。初めて仏像を目にした欽明天皇が「仏の相貌（かお）、端厳（きらぎらし）」と讃嘆したことが記録に見えており、まばゆいばかりの仏像の輝きが人びとを魅了した様子が分かります。この時の仏像の姿は想像するよりほかありませんが、**《如来立像》（No.8）**などは参考になるかもしれません。

なお、記録によると仏教が伝わった際、仏像だけでなく荘厳具（寺院の内部を飾るための仏具）ももたらされたようです。**《繍仏裂》（No.6、後期展示）**もこの荘厳具の一部と考えられ、本作にあらわされたほっそりとした天人の姿は、仏教が伝来して間もない飛鳥時代の流行をよくあらわしています。

《菩薩半跏思惟像》（No.9）は、丸顔でぷっくりとした肌が童子のような愛らしさを感じさせる仏像です。仏教が人びとに広がっていく中で、仏像の姿も多様化していった様子がうかがえます。

平安時代は日本の仏像の歴史を考える上で画期となる時代です。それまでは、金属や漆、粘土など様々な素材が仏像制作に用いられていましたが、平安時代以降は一転して木を素材とする仏像が急増しました。平安時代のはじめ頃は、**《帝釈天立像》（No.10）**のようにいかにも丸太から彫り出したような、厚みと抑揚に富んだ作風の仏像が流行します。このような一木造の仏像は素材の大きさという制限があったため、次第に複数の部材を組み合わせる寄木造の仏像が作られるようになりました。これに伴い、大型の木彫像制作が可能になったことに加え、**《風神像》（No.11）**のような、動きのある姿の仏像も制作されました。

木という素材は、古来、建築用材として重宝されていたほか、神が宿る依代（よりしろ）として祈りの対象でもありました。木彫像の流行は神に対する信仰と仏に対する信仰の融合（神仏習合）を導き、本来姿を持たないはずの神像**（No.12）**や、木と同じく依代である鏡に仏の姿を刻む鏡像**（No.13）**の出現につながります。このような神仏習合の進展は、外来の宗教である仏教が日本の人びと心に根付いていく様相を示しています。

松永コレクションの仏教絵画

松永コレクションの仏教美術には多くの絵画も含まれます。春日山の麓に広がる春日社の社殿や興福寺の尊像を描いた**《春日社寺曼荼羅図》（No.14）**は、当時の貴族が本図に祈りを捧げることで疑似的に春日社に参詣するために制作されたと考えられます。

《地獄草紙断簡・勘当の鬼》（No.15、前期展示）、**《病草紙断簡・肥満の女》（No.16、後期展示）**は、現在は掛軸ですが、いずれも絵巻物の一部です。本作のように六道（仏教において死後に転生する6つの世界）をテーマにした作品は、現世を厭う気分が高まった平安時代から鎌倉時代にかけて流行しました。

図像とは、仏の種類を示すための姿勢や持ち物のこと。元々は僧侶が手控えとして描いたスケッチ風のものでしたが、高名な僧侶にゆかりの深い図像などはそれ自体が祈りの対象となることもあり、**《白描図像》（No.17）**のように礼拝画として十分な大きさを備えた作品も描かれるようになりました。本作は、空海が日本にもたらした図像に基づく姿を描いています。

《文殊菩薩騎獅像》（No.18）は、聡明な童子のような文殊とおどけた表情の獅子とのギャップが印象的な作品で、厳粛な礼拝画というよりは独特の親しみやすさを感じさせます。

・◎は重要文化財、○は重要美術品を示します。
・「前期」の記載がある作品は6月2日（火）～ 7月5日（日）、「後期」の記載がある作品は7月7日（火）～ 8月9日（日）、までの展示です。
・都合により展示作品を変更する場合があります。
・番号は展示順と異なることがあります。

出品作品リスト

No.			作品名	作者名・産地	時代	品質	法量（cm）	所蔵番号
1			絵因果経断簡		鎌倉時代　13世紀	紙本着色	縦27.8　横57.2	6-B-11
2			根来薬器		南北朝時代　14世紀	木胎漆塗	高8.5　径8.8	6-Hb-54
3			珠数文蒔絵八角沈箱		南北朝時代　14世紀	木胎漆塗	高8.3　径13.5	6-Hb-24
4			舎利塔		鎌倉時代　13-14世紀	青銅製鍍金	総高40.5	6-Hc-28
5	◎	前期	焔摩天像		平安時代 天暦6年（952）頃	木板着色	縦31.7　横24.1	6-B-40
6		後期	繍仏裂		飛鳥時代　7世紀	絹製、平織、刺繍	縦31.0　横12.6	6-Hd-2
7			弥勒菩薩坐像		パキスタン 3-4世紀	石造	総高56.2　像高40.2	6-G-22
8			如来立像		統一新羅時代　8-9世紀	青銅製鍍金	総高18.2　像高12.8	6-G-19
9	◎		菩薩半跏思惟像		飛鳥～奈良時代 7-8世紀	青銅製鍍金	総高 28.3　像高21.7	6-G-1
10			帝釈天立像		平安時代　9-10世紀	木造彩色	総高126.6　像高 98.8	6-G-5
11			風神像		鎌倉時代　13世紀	木造彩色	総高69.0　像高59.6	6-G-7
12			男神像・女神像　2躯		平安時代　12世紀	木造彩色	像高39.1（男神像） 像高30.4（女神像）	6-G-9
13	◎		線刻十一面観音鏡像		平安時代 長承3年（1134）	青銅製	径31.6	6-Hc-18
14			春日社寺曼荼羅図		南北朝時代　14世紀	絹本着色	縦166.3　横58.0	6-B-14
15	◎	前期	地獄草紙断簡・勘当の鬼		平安～鎌倉時代 12-13世紀	紙本着色	縦26.0　横59.5	6-B-12
16	◎	後期	病草紙・肥満の女		平安～鎌倉時代 12-13世紀	紙本着色	縦25.3　横45.1	6-B-13
17	○		白描図像　2幅対	玄証（1146-1222）	鎌倉時代　12-13世紀	紙本墨画	縦73.0　横57.9	6-B-17
18	○		文殊菩薩騎獅像		鎌倉時代　14世紀	絹本着色	縦70.7　横36.9	6-B-16